

北山エリア整備に係るワークショップ（1回目）意見

テーマ：北山エリア整備に望むこと（植物園を中心に）

＜植物園に行ったことはあるか。＞

今の植物園に対してどのように感じるか＞

【1班】

- ・ 温室に小学校から通っていて、植物園は遊び場のひとつだった。老人会で菊を見に行く会が毎年あって、行っている。
- ・ 仕事で5回行ったことがあるが、だだっ広くて、どこにどんな植物があるのかわからなかった。
- ・ 幼稚園や学校のイベント、行事などで、20回以上行っている。花見や、正門横のギャラリーの絵の展示、講演にも行った。
- ・ 中高生の頃、写生大会で4回ほど行った。毎年描く場所に悩む。
- ・ 植物園は広くて自然が多くていい。散歩コースにしている。

【2班】

- ・ 1回200円なので、よく行く。毎月、子どもや地域の人と行っている。子どもが何度も行きたくなる。
- ・ よい季節の頃に行く。小学生には広すぎるようだ。
- ・ 保育士として、ピクニックがてら行く。
- ・ 遊具が少なく、遊ぶスペースが狭いので、遊びたい子どもたちには物足りないよう。遊具には、京都らしく丸太を活用したらいい。本箱（きのご文庫）ももっと活用して欲しい。
- ・ ベンチやイス、休憩スペースが少ないので、女性にやさしく、年配者にも配慮して、要所要所で休憩できるようにして欲しい。
- ・ 花はきれいだが、入口が美しくない。影のある所は、落ち葉だらけになっている。
- ・ ステキな場所なのに、入口に木々が多くて、暗くなっているので、明るく、入りやすくして欲しい。

- ・ トイレが暗くて老朽化しており、虫もいるので明るくして欲しい。手洗いが少ないので行列になっている。授乳室が少なく暗いので、数を増やして欲しい。弱者には使いにくいので、障がい者にもやさしいトイレにして欲しい。
- ・ 植物園に行ったのは2回だが、当時の彼女と行き、今彼女が奥さんになったので、思い出の地となっている。植物の展示方法がイマイチだったので、おしゃれな名前にしたり、ソフト面の整備をしたりすればよくなりそう。芝生エリアにしか飲食スペースがないが、それ以外の場所に明るいレストランができるといい。由緒ある芝生は残して欲しい。

【3班】

- ・ 子どもたちとどんぐり拾いに行ったら、楽しんでくれた。
- ・ 70歳以上と未就学児は無料なので、散歩道にしている。
- ・ 小学生の時は、広いと感じた。ゆっくり見ると半日~1日かかるが、子どもと一緒にだと、ゆっくり見られない。動物園なら教えられるのだが、植物に詳しくないので、もっと教えてあげられたら、ゆっくり回れるかもしれない。
- ・ 人の手が加わりすぎていない、自然の力を感じる異世界空間。何があるのかと、想像力を掻き立てられる。

<植物園にどんな機能があるとうれしいか（学びの機能を中心に）>

【1班】

- ・ 花にまつわるワークショップなど、「あ、これ行きたい!」と、植物園に行くきっかけになるイベント。
- ・ 植物を自由に採取できるエリアがあるとうれしい。
- ・ VR映像により、桜の季節に来ても紅葉を見ることができたり、一年を通して四季の植物を観察できたりする機能。
- ・ 研修を受けたボランティアに活躍して欲しい。府民の学びに関する活動として、文化史や社会学なども絡めて、府大の先生が監修するなど、専門家が裏付けしてくれたら、ボランティア本人にとっての学びにもなり、ガイドされる人もうれしい。

- ・ 学びのヒントや楽しみ方を教えてくれたり、体現している職員やボランティア、専門的な話をしてくれるガイドさんなどが巡回したりして欲しい。「話したい」「学びたい」といった意思表示のシールを配布し、衣服の見えるところに貼付しておく、上記の職員等が声をかけてくれるしくみ。例えば、ネイチャーインタープリターや、はしかけさんのような学びたい人と教える人がつながる仕組みがあるといい。
- ・ 園内の地図をスマホで見られるアプリなど、デジタル化を進めて欲しい。植物の名前だけでなく、花言葉や、その植物が読み込まれた万葉集の歌、軽いタッチのうんちくなどもスマホアプリでわかれば、学びの入口になる。
- ・ 施設ではなく「場」と言い換えたら、ハードやソフト、人材なども絡ませて考えやすいかもしれない。

【3班】

- ・ 貴重な花や植物などの一步踏み込んだ情報が掲載された小さい植物図鑑を子どもたちに渡せると、帰ってからでも調べられる。
- ・ 生活の中で植物に触れ合う機会をつくるために、植物園の職員さんに知識を教えてもらいながら、種をもらって小学生たちが育てる体験ができる「自分たちの植物園」を園内に作ってはどうか。世代がつながり、大人になってもまた来たくなると思う。

<学び以外にどのような要素があるとうれしいか>

【1班】

- ・ グランピングやキャンプの施設。宿泊できると、夜の植物園も楽しめる。遊べる企画をつくって欲しい。
- ・ 食用の花など、植物園ならではのメニューが食べられるなど、植物園の雰囲気を楽しめるおしゃれなカフェ。植物つながりで、香りのお店などもあるといい。
- ・ 温室の中に蝶が飛んでいるエリアがあつたらいい。
- ・ 植物園の端から端までを、上から望めながら移動できるような本格遊具。大人もドキドキできる。

- ・ ちょっと大きな子どもも楽しめるアスレチック。ここにあれば、地下鉄で行けるのがうれしい。
- ・ 半木神社にスポットを当てて、大事にしたい。そのために例えば、植物園に俳句の会の人に来て俳句コンテストをして、絵馬にして半木神社に奉納するというようなイベントをしてはどうか。
- ・ 京都の地理、歴史が絡むミステリーツアーや脱出ゲーム。
- ・ 海の京都、森の京都、お茶の京都といった、京都府の事業と絡めた短期間限定でショップを開設するポップアップショップ。植物×京都府の切り口で、京都府のインフォメーションになるとおもしろい。
- ・ 京都府全体を縮小した庭を制作するイベント。
- ・ 当日に申し込んでも、1人で行っても、ついてくれるボランティアのガイドがいてくれたらうれしい。交通費 1,000 円ぐらいの謝礼で、ボランティアについてもらう仕組みを取り入れている自治体もある。
- ・ 北山や植物園のよさ、京都らしさを、海外にもアピールしたい。盆栽コーナーや、庭づくり、石庭づくりのワークショップなどもいい。
- ・ ライトアップした植物園とアーティストの期間限定コラボ。植物園に行くきっかけや、リピートする理由になる。
- ・ 府民が専門家と一緒に植物園の整備を手伝うことで、愛着が生まれる。
- ・ 車イスや足が悪くても楽しめるよう、自動運転でゆっくり走る電車型の車など、園内交通を整備して欲しい。逆にアナログな人力車なども、コミュニケーションができてよい。
- ・ 木登りができる木や、ツリーハウスなどの冒険遊び場を、つくりたい人を集めてみんなでつくりたい。

【2班】

- ・ 鴨川の河川敷にて行う野外映画上映会「カモシネマ」が、鴨川地域の住民と学生が交流できる場になって欲しい。このような機能を持った場所が欲しい。

- ・ 小学生が写生大会をするときに、絵の具を洗うための水道が欲しい。
- ・ 休日は自転車があふれているので、自転車置き場を増やして欲しい。空気入れも置いてもらえるといい。
- ・ 噴水が少ないが、夏場の暑さ対策としてミスト効果も期待できるので、増やして欲しい。
- ・ 「鴨川を美しくする会」がやっている鴨川茶店とコラボして、共通理念を広げていけたらいい。
- ・ 鴨川には灯りが無いが、暗さを楽しむ引き算の空間設計で「京都らしさ」を維持して、おしゃれに、ソフト面も気を配ってやさしい設計にして欲しい。それが映えスポットになれば、SNSで情報発信してもらえる。投稿で何か、インセンティブをつけてもいい。一方で、よいところは維持して欲しい。
- ・ 植物園は、大人は楽しめるけれど、子どもはあまり楽しめない。現状は、木登りやドングリ拾いなどがダメだが、子どもたちが自然を楽しめるようにして欲しい。
- ・ 鴨川で年1回、納涼祭があるが、「鴨川に来たら植物園に行こう！」というキャッチフレーズで、鴨川と植物園をセットで案内してはどうか。
- ・ 京都府と地域団体や、大学同士でのコラボイベントをやってみたらいい。
- ・ 園内が広すぎるので、自転車やカートなど、園内での移動手段が欲しい。
- ・ 大きな案内の看板があると、わかりやすい。
- ・ 植物園ならではの植物のうんちくを伝える看板等があるといい。
- ・ 植物を使ったワークショップを開催して欲しい。植物との触れ合いが学びにつながる。
- ・ 携帯電話の充電スポットもあるとうれしい。
- ・ 入口で京都の特産品販売をしたらいい。
- ・ 植物園から情報を伝えるだけでなく、来場者に地域住民等のボランティアの人が植物園を案内すると、双方向で行き来が生まれ、相乗効果につながる。

【3班】

- ・ 何が有名なのかわからないので、北側から入る人が多いが、南側ももっと利用して欲しい。
- ・ 遊園地感覚で、園内を安全に簡単にアナウンス付きでゆっくり回れる乗り物があると、年齢層高めの来園者や弱者にも優しくなる。
- ・ 今は、遊具が減って、「見る」が中心になっているので、大人になるとあまり覚えていない。ツリーハウスや木登り体験ができる記憶に残ると思う。
- ・ 季節によって異なる魅力を楽しめるので、それを発信して欲しい。現状は、バラ以外の情報が届かず、魅力が伝わっていないが、伝われば、「そうだったのか。行きたい！」となる。今は職員のみでやっている事前告知を、府大生に SNS で発信してもらおうといい。マーケティングや広報の勉強にもなり、単位ももらえるといい。
- ・ 新しいカフェを作るのではなく、今ある魅力を活かす。例えば、植物園内のハーブを使ったハーブティーなど、植物園ならではの商品を提供したり、職員から食べられるものとそうでないもののレクチャーをしてもらえたりすればおもしろい。花から作ったカラフルなジュースや、草木染など工作体験を増やしたい。
- ・ 毛虫が気になるものの、天気がいい日には、園内で仕事ができたら楽しい。
- ・ 新しい入り口をこれ以上つくると、道で遮断され、雰囲気は壊れてしまう。小さなマルシェぐらいならいいが。
- ・ アクセスがよければ OK ではなく、土をコンクリートにしたりしないで、手をつけない空間のよさを守って欲しい。入場者数より、学びや体験を大切にしたい。
- ・ 開発前提ではなく、植物園の中から見、外の景観は壊さないで欲しい。

<その他北山エリア全体にどんな機能、コンテンツがあればうれしいか>

【1班】

- ・ 北山エリア全体のコンセプトや、特徴をもっと打ち出すといい。
- ・ デジタル通貨を導入してはどうか。
- ・ 府大の学生に、府内の市町村のPRをしてもらったら、学生フィルターで、大人には考えつかない楽しみ方を伝えてくれるのではないかな。研究のフィールドワークなどでも、ワークショップやプロジェクトでコラボするのもいい。学生を育てて、活用するイメージ。
- ・ 府大以外の大学生だが、上記の試みを、府大だけに限定せず、京都の大学を全部巻き込んでして欲しい。自分も参加したい。
- ・ 共同体育館も、学生と地域がつながって使えたら、多世代がまじりあって交流できる。
- ・ 植物園の正門前で、京都の野菜とか、関連性のあるものを集めて販売すると、家族連れで賑わうと思う。